別紙様式

令和8年度　学校評価自己評価表　（評価計画・中間評価・最終評価）　東広島市立風早小学校

学校の教育目標	未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成 【めざす児童像】 〇自分で考え、行動できる子　〇相手の立場を理解し、互いに協力し合う子 〇見通しをもって、挑戦しようとする子　〇学校や地域を愛する子	経営理念	チーム風早小で進める学校運営 ① チャレンジ・・・・・・・・・・・・・・・・目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ・・・・・・・・・・・・・・・・・アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション・・・・・・・・・・学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価 ※学校の自己評価に対する評価			
中期経営目標		短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策	達成値 10月	達成値 2月	達成度	評価	結果と課題の分析	改善方策	評価 A	評価 B	評価 C	コメント
確かな学力	〇自ら学びを調整し、挑戦する児童の育成 〇確かな学力の定着	・児童が「問い」を生成する力の育成 ・研究を支える教材研究の充実と授業改善 ・基礎学力の向上	・研究に係るアンケート結果において肯定的回答の児童80%以上 ・国算の単元末テストの平均点80点以上 ・CRTの平均正答率で、全国平均以上の学年8割以上	80% 80点 80%	・土台となる学級づくりや学習規律の確立 ・教材研究の充実 ・校内研修の活性化 ・「本物」の多角的な提示 ・思考を揺さぶる比較検討の場面や考えを共有する場面の設定 ・ICTの効果的活用 ・読書の奨励	89% 87%		111% 109%	4	・研究に係るアンケート結果はどれも80%を上回った。生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域の方と連携をとりながら授業づくりを行ったこと、また、児童に本物に触れる体験を多く行わせたことで、児童に地域の一員であることを自覚させることができたためであると考える。さらに、課題意識をもたせることにもつながった。 ・国語、算数の単元末テストの平均はどの学年も80%以上となった。ドリルパーク（タブレット学習）を使った反復練習による基礎学力の定着や、友だちと考えを共有させ考えを深めさせる場の設定が効果的であったと考える。	・方策を継続する。 ・方策を継続する。	○			・達成度が高く、自己評価も的確で、次回へとつながる内容であった。計画通り進めてほしい。 ・机上・タブレットだけでなく、本物と出会わせる実践が重要である。継続してほしい。本物に触れるための地域資源を見付けたら共有したい。
豊かな心・たくましい体	〇自他を尊重し、協働できる児童の育成 〇健康でたくましい心と体の育成	・風早プライド（挨拶・返事・掃除）の徹底 ・認め合う人間関係づくり ・基本的生活習慣の確立 ・基礎体力の向上	・挨拶についての児童アンケート結果において肯定的回答85%以上 ・生活習慣アンケート（睡眠時間やSNSに係る時間を守っている児童）80%以上 ・新体力テストの課題種目で自己記録を更新できた児童80%以上	85% 80% 80%	・風早プライド（生活目標）に対する各学年の取組の可視化 ・校長表彰の実施（児童の自己肯定感の向上） ・異年齢集団活動の充実 （縦割班活動・児童会による全校遊び等） ・生活習慣アンケート（年2回）の実施 ・自己目標を意識した体育指導 ・体育の時間にラダー運動を実施 ・体育朝会でジャンプ運動の奨励	85% 70% 76%		100% 86% 95%	3 2 2	・挨拶については、目標値85%を達成した。風早プライドにも取り上げ、いろいろな場面で意識させたためであると考える。 ・達成値は80%未満であった。児童の意識化が不十分であった。しかし、中には、児童の意識的な取組も見られた。 ・達成値は未達であった。基礎体力向上が不十分であった。	・段階表を用いてどの段階でつまずいているのかを自覚させ、挨拶を頑張る児童を増やしていく。 ・睡眠の重要性について指導し、就寝習慣やメディア利用の改善につなげていきたい。 ・方策を継続する。	○			・改善方策が具体的で、分析も的確であった。 ・生活目標の取組はマンネリ化しやすいが、工夫されている。 ・今後も、自分事として目標をもっての取組を継続してほしい。 ・メディア利用は課題。制限などを考えるべきである。 ・課題である、基礎体力向上に取り組んでほしい。
開かれた学校づくり	〇コミュニティ・スクール（C.S）の充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	・母校・地域に愛着と誇りをもつ児童の育成 ・地域資源の教材化（「本物」との出会い）	・学校や地域への愛着度についての児童アンケートの肯定的評価90%以上	90%	・地域や専門家を『本物』のMTとして招く授業を、各学年で年間1実践以上開発・実施 ・C.Sの校内研修を実施 ・C.S連絡会の定例化 ・学校運営協議会による熟議	96%		96%	3	・前期までで全ての学年において、達成した。MT招致または地域と関わる授業を実施できたためであると考える。昨年度と異なるテーマを設定する学年もあり、新しい視点で地域と向き合っている学年もある。 ・CS校内研修は1回実施した。”風早の輪”をテーマに、登場人物や歴史に縁のある地を尋ね歩いたり、紹介したりした。CS連絡会は、連携者の負担にならないよう、1～2か月に1回の頻度で実施した。これらのことから、教職員の意識が高まったことも一因であると考えられる。	・継続して地域と連携していく。 ・学校運営協議会による熟議は、第3回で実施予定である。	○			・目標値が高い中で十分な達成ができている。結果の分析も具体的である。 ・地域と学校の関係が良好である。 ・教員も本物に触れることは大切である。 ・特徴的な産業も多いので、教材を広げてほしい。
持続可能な学校経営	〇働き方改革と業務改善の推進	・教職員が健康で働き甲斐のある職場づくり	・学校は働き甲斐があると肯定的評価をする教職員80%以上	80%	・仕事の見通しと優先順位をつけた計画的・効率的な職務遂行 ・教材研究や児童に向き合う時間を確保するための業務改善	93%		116%	4	・「働き甲斐があるか」という質問に肯定的回答をした教員が93%であった。自分で主体的に取り組むことができたためと考える。 ・「効果的・効率的な業務改善意識をもって取り組んだか」という質問に対して93%の教員が肯定的回答をしている。また、78%の教員が1か月の勤務時間外勤務が45時間未満である。業務改善の意識が高まっているためと考える。	・引き続き、一人一人の職員が働き甲斐をもって努められる、風通しのよい職場をつくっていきたい。 ・全ての教員が、仕事の見通しと優先順位をもち、夏休み等の時間を効果的に使えるよう、学校衛生委員会で確認し、業務改善を含め意識を更に高めたい。	○			・働き甲斐を感じることが重要。高い達成度を継続するために、改善方策を生かしてほしい。 ・教職員の負担を軽減するために、地域も積極的に関わることができた。 ・引き続き、風通しのよい職員室を作っていってほしい。

評価★　4…目標を上回って達成（5／6学級以上）　3…目標どおりに達成（4／6学級）
2…目標をやや下回って達成（3／6学級）　1…目標をかなり下回ってに達成（2／6学級以下）

評価　4…目標を上回って達成（110%～）　3…目標どおりに達成（90%～110%）
2…目標をやや下回って達成（70～90%）　1…目標をかなり下回って達成（～70%）